



広島県神石高原町を拠点とした アジア地域（ネパール）の農業人材育成

広島県神石高原町政策企画課 主任主事 田村 将平

はじめに

広島県神石高原町は、標高 500～700m に位置する中山間地域のまちであり、のどかな里山や湖、渓谷など、豊かな自然に恵まれた、農業を基幹産業としているまちです。本町は、人口減少の進行などにより、高齢化率は 50% を超えており、地域産業の後継者不足や関係人口の減少などの課題を抱えており、それらの地域課題の解決を図るため、町内に本部を置く NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンと連携した国際協力と地域振興の取り組みを行っています。本稿では、その取り組みと成果についてご紹介します。

事業実施の背景

神石高原町は、農業を軸に人材育成や資源循環型農業、特産品開発、外部人材の活用を進めて地域活性化を図ってきました。一方ネパールでは、経済危機や地震による被害から海外出稼ぎ者が急増し、特に農村では人口流出と高齢化が急激に進行しています。農業は生計の中心ではありますが、現金収入を得る手段に限られ、若者が離れる原因となっています。こうした背景から、神石高原町の経験を生かし、ネパール農村の生計向上と地域振興に寄与する国際研修事業が始まりました。

事業の目的と意義

本事業には 3 つの目的があります。第一の目的は、神石高原町の農業技術や地域振興の事例をネパールの農家や関係者が学び、現地での応用につなげることです。特に生姜やトマトといった換金作物の栽培、加工品開発、マーケティング手法を伝えることで、現金収入の向上と農業の魅力化を目指しています。第二の目的は、日本で技能を習得した外国人が帰国後に活躍できる環境を整備することです。また、農業技術だけでなく、地元での職業的尊厳の再構築を図ります。第三の目的は、神石高原

町内の住民や高校生に国際交流の機会を提供し、国際理解と地域の活性化を促すことです。



道の駅での野菜値付けと陳列 和牛牛舎の見学

研修の内容と実施状況

2024 年 11 月、ネパールから農家 2 人と通訳 1 人を神石高原町に招き、農業研修を実施しました。神石高原町ではトマトやいちごといった有機農業、乳牛や和牛などの畜産、堆肥作りなど幅広い分野を学びました。また、道の駅での販売システムや加工品製造の流れ、地域ブランド戦略などマーケティングについても研修を実施しました。さらに町内の高校との交流では、授業や牛舎見学を通して、日本の農業教育や地域とのつながりについて理解を深めました。最終日には報告会を開催し、地域住民や関係者に学んだことを共有するなど交流を深めました。

おわりに

この取り組みを通じて、本町は農業の振興と地域活性化を実現するとともに、国際的な関係人口の創出につなげることができ、またネパールからの研修生は、農業技術の向上と地域振興の手法を学び、持続可能な発展に向けた第一歩を踏み出すなど、双方の地域にとって有益な成果を生み出すことができました。

NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンと連携することで実現できた本事業は、神石高原町とネパールの双方にとって新たな可能性を広げる一助となり、地域の持続的な発展と国際的なつながりを深めるきっかけになることを期待しています。今後もこの取り組みを継続し、さらなる発展と拡大を図っていきたいと考えています。